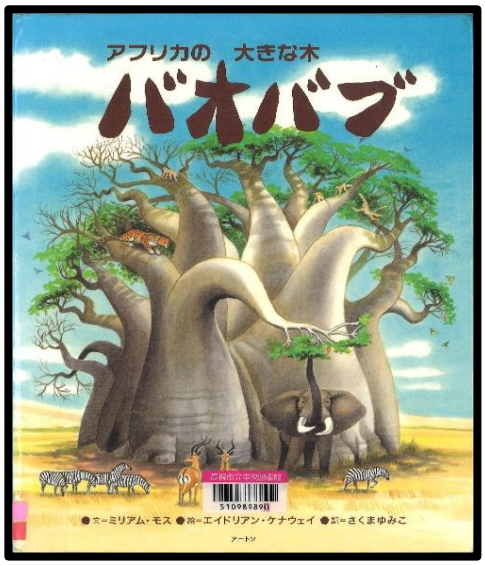
アフリカの　大きな木

バオバブ



ミリアム・モス/文

エイドリアン・ケナウェイ/絵

さくま　ゆみこ/訳

アートン〔エ〕

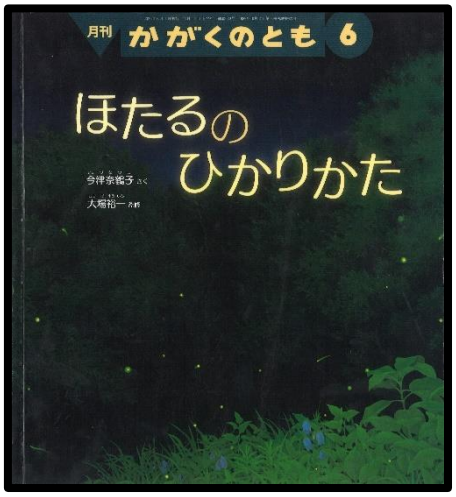
大きな木バオバブは、大むかしからアフリカの平原にどっしりとたち、おおくのいのちをやしない、たくさんのものをみてきました。

バオバブは、どうぶつたちの子そだての場や、鳥や虫たちのすみかになります。大きなえだはひざしをさえぎり、すずしいかげをつくり、動物たちのいこいの場となり、実や花は、動物たちの食べものになります。

２０００年も生きてきたバオバブだとみきの直径が１０メートルにもなるそうです。お話のさいごには、バオバブの木について書かれています。

高槻市立中央図書館　ちゅうちゅうニュース　令和７年 7･8･9 月号　＜低学年向け＞

ほたるのひかりかた



かがくのとも２２年６月号

今津　奈鶴子/さく

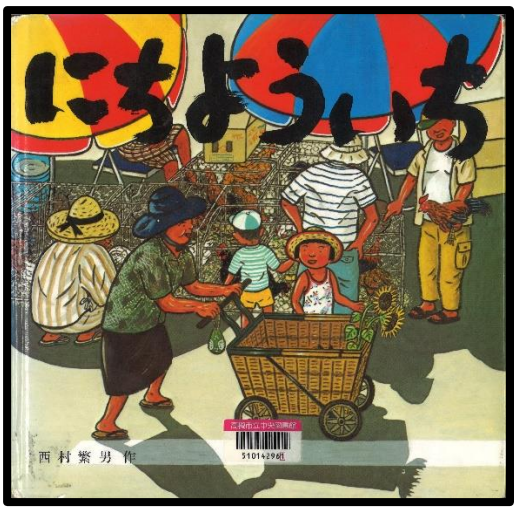
大場　裕一/監修

福音館書店

夏がちかづくころ、夜になるといっせいにひかったりきえたりしながら川のまわりをとびまわるほたる。とんでいるひかりのおおくがオスのほたる、草の上やかげでじっとしているひかりのおおくはメスのほたるです。

ほたるのひかりは、ねつがないのでさわってもあつくありません。ほたるは、たまごのときからぼんやりとひかっています。ようちゅうになると、とくべつなときだけ強くひかるようになります。関東のゲンジボタルをもとにえがかれています。

にちようういち



西村　繁男/作

童心社〔エ〕

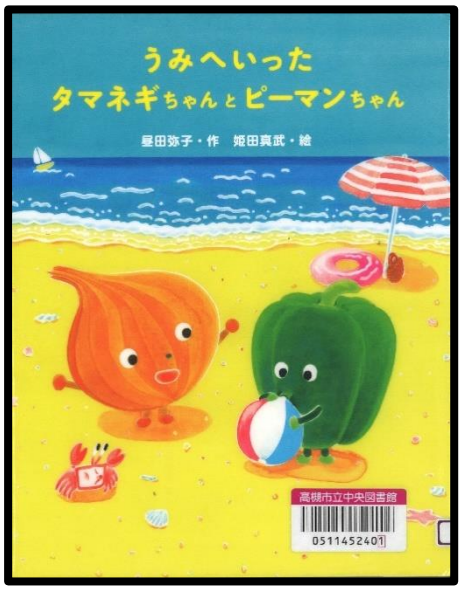
夏のあつい朝、あっちゃんとおばあちゃんは「にちようういち」にでかけます。四国の高知市では日曜日に、「にちようういち」というういちがあります。

のうかの人たちがもってくるやさいやくだもののほか、いろいろなおみせがならびます。あっちゃんとおばあちゃんは、どんなものを買うのでしょう。

会話はすべて土佐弁で書かれているので、「にちようういち」にいるような気分を味わえます。

高槻市立中央図書館　ちゅうちゅうニュース　令和７年 7･8･9 月号　＜低学年向け＞

うみへいったタマネギちゃんとピーマンちゃん



昼田　弥子/作

姫田　真武/絵

佼成出版社〔913ヒル〕

タマネギちゃんとピーマンちゃんは大のなかよし。きょうはふたりでうみへいく日です。やくそくのじかんに来ないピーマンちゃんを、タマネギちゃんがむかえに行くと、まだねていました。

タマネギちゃんは、なかなかおきないピーマンちゃんのおなかの小さなあなからくうきをぬき、ペッタンコになったピーマンちゃんをうみへつれていきました。

うみべでカラフルなやさいたちがまきおこすさわぎが楽しいおはなしです。